

令和8年6月14日

潮江地区

地区別事前復興まちづくり計画 ワークショップ資料

目 次

ワークショップの進め方	P2
第2回ワークショップの振り返り（意見交換1）	P4
（最終案）復興の目指すべき姿＝ビジョンについて	P6
第2回ワークショップの振り返り（意見交換2）	P7
最終復興パターン（案）について	P11
第2回ワークショップの振り返り（ワーク4）	P13
ワーク5：災害が起こる前からできることを考えてみよう！	P14
ワークショップを終えて	P15

ワークショップの進め方（全体）

済

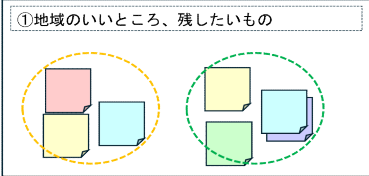
第1回ワークショップ (計100分)

R7.11.9

- ・事前復興まちづくり計画の目的
- ・地区の現状と課題を説明（10分）

ワーク1
(25分)

地区のいいところ・残したいもの
困っていること



Point

被災後の
「ビジョン=目指すべき姿」
へつなげる

- ・復興パターンの概要説明（10分）

ワーク2
(25分)

復興パターンについて感想

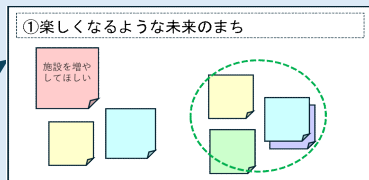
復興パターン	1案 移転対応案	2案 現地再建築
ポイント	・移転地区の最大な被害が想定される場所の 高台移転によるコミュニティの維持 (移転先は仁井田公園周辺と三葉中学校周 辺を想定)	・住み続けられる復興を基本とするコミュニ ティの維持 ・最大な被害が想定される地区では徹底的 な見直しにより、津波安全性の高い住宅地を収 入
活用事業	・防災集団移転促進事業 ・被災者生活再建支援事業 (災害復興区域)	・土地活用促進事業
メリット	・安全な場所への移転による、生命や財産を 守ることができる ・新たな防災意識が促される	・現地で生活再建、コミュニティの再構築 ・防災機能等の安全性向上 ・土地利用の促進に集約化が図れる
デメリット	・合意形成の長期化 ・地域の長期化 ・移転後の地域の活性化 ・コミュニティの分断、自然環境の悪化	・合意形成の長期化 ・地域の長期化 ・被災者生活再建支援事業の負担 ・減少など土地の負担
期間比較	○	△
費用比較	○	△

Point

復興パターンに対する意見を
述べてもらい
第2回目に修正案を提示

ワーク3
(25分)

楽しくなるような未来の
まちを想像する



Point

ゾーニングに対する意見を
引き出す

- ・まとめ（5分）

済

第2回ワークショップ (計100分)

R8.2.7

- ・第1回ワークショップ振り返り
(ワーク1、ワーク3) (15分)

- ・目指すべき姿(案)の提示 (25分発表込み)

意見交換

- ・第1回ワークショップ振り返り
(ワーク2) (意見交換)

意見交換

- ・修正復興パターン案の提示
(説明10分 ワーク20分 発表5分)

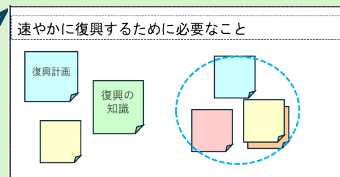
ワーク4
(20分)

速やかに復興するために必要なこと

Point

- ・被災後の自立再建を
意識してもらう
- ・復興でのすべきことを知って
もらい復興中の活力につなげる

- ・まとめ（5分）



目標

復興ビジョンを取りまとめ、修正復興
パターンの意見をもらう

R8.6.14

第3回ワークショップ (計100分)

- ・第2回ワークショップ振り返り
(意見交換1)
- ・最終目指すべき姿(案)の提示
- ・第2回ワークショップ振り返り
(意見交換2) (50分発表込み)
- ・最終復興パターン案の提示

意見交換3

- ・第2回ワークショップ振り返り（ワーク4）

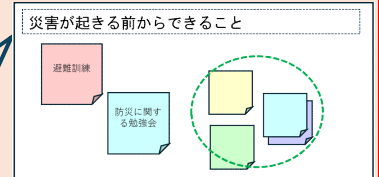
ワーク5

災害が起きる前からできること
(35分発表込み)

Point

防災意識の向上
地域での防災活動の啓発

- ・まとめ（15分）



目標

復興パターンの取りまとめ

地区別事前復興まちづくり計画とは？

被災後、早急に復興が進められるように
復興パターン・土地利用の選択肢をあらかじめ用意しておく

次世代へバトンタッチ!!

被災後

被災状況に応じて復興パターン・土地利用を選択



ワークショップの進め方（第3回）

①第2回目の振り返り（意見交換1）

（最終案）地区の目指すべき姿＝ビジョンについて



②第2回目の振り返り（意見交換2）

最終復興パターン案の提示



③意見交換3：地区別事前復興まちづくり計画(潮江地区)について

④第2回目の振り返り（ワーク4『速やかに復興するためにできること』）

ワーク5：災害が起こる前からできること



⑤まとめ

第2回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

意見交換1 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

案1（第1回ワークショップで提示済み）

『つながる安心 自然と共に生きるまち』

交通ネットワークの整備や都心への近接性を活かし、**交通の利便性と人々のつながり**を確保するとともに、災害に対して安全安心で豊かな自然環境と親水空間を大切にしたまちを目指します。

案2（ワーク1の意見を踏まえた案）「防災」と「コミュニティ」を主軸とする案

『深まる絆 災害にも強く、安心な暮らしを未来へつなぐまち 潮江』

地域の絆を育み、共助力と防災力を高めながら、誰もが安心して暮らし続けられる**災害にも強い**潮江を未来へ受け継ぐ、持続可能なまちを目指します。

案3（ワーク1の意見を踏まえた案）「自然」、「都市」、「歴史」を主軸とする案

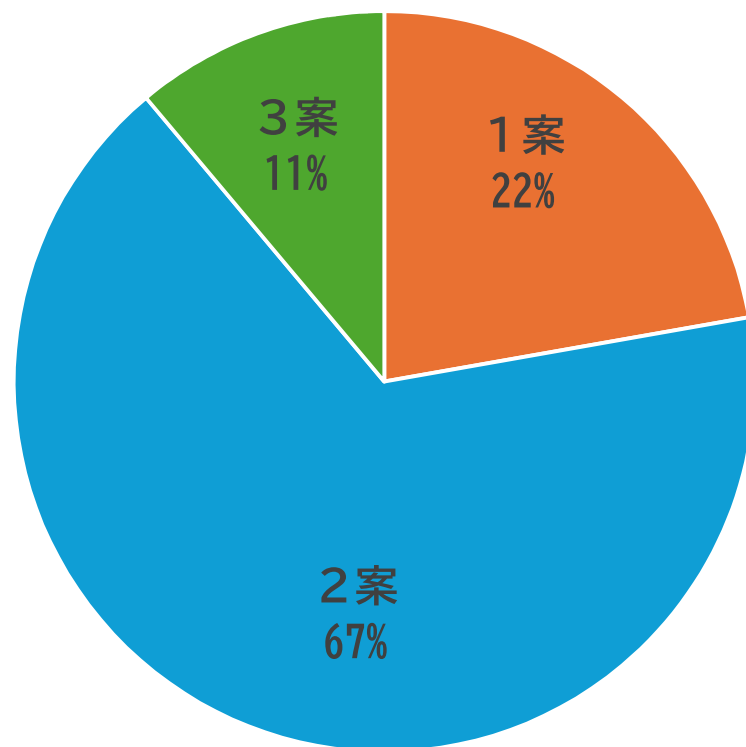
『自然と都市が調和し、歴史の魅力に溢れたまち ～山・川・海と共に歩む潮江～』

都市の利便性と山・川・海の豊かな自然が調和する潮江で、受け継がれてきた歴史や文化資源を生かしながら、**自然・都市・歴史が共に輝く魅力ある暮らし**を創るまちを目指します。

意見集約結果

意見交換1 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

復興ビジョン評価



■ 1案 ■ 2案 ■ 3案

1案

- ・「**交通の利便性**」が潮江の特徴を表しているという意見があった
- ・文章が短く、簡潔で分かりやすい点が評価
- ・「自然」災害と共にいけるという姿勢が地区の現状に適している

2案

- ・「**絆**」や「**共助**」、人のつながりを重視する点に多くの共感が集まった。
- ・「**安心な暮らしを未来へつなぐ**」という前向きな言葉が支持された。
- ・「コミュニティの強さ」を主軸に捉えたいという声も多かった。

3案

- ・**自然**を主軸にしているのはいい
- ・筆山・高見山の囲まれた、「**豊かな自然環境**」は唯一無二の魅力である。
- ・地区の特徴を具体的にイメージできるワード（山・川・海）を大切にしたいという声があった。

(最終案)潮江地区 地区の目指すべき姿＝ビジョンについて

【決定の経緯】

- ワークショップ等で約7割（67％）の支持を得た案2をベースに、「人のつながり（絆・共助）」を復興の最も大切な柱とし、これに加えて、1案で評価が高かった「交通の利便性」と、3案で大切にしたいとされた「筆山・高見山の豊かな自然」の両方を、潮江の誇りとしてビジョンの構成要素に取り入れ、前向きな「安心」や「未来」という言葉を選ぶことで、子どもたちも覚えやすく、明るい希望が持てるスローガンとしました。

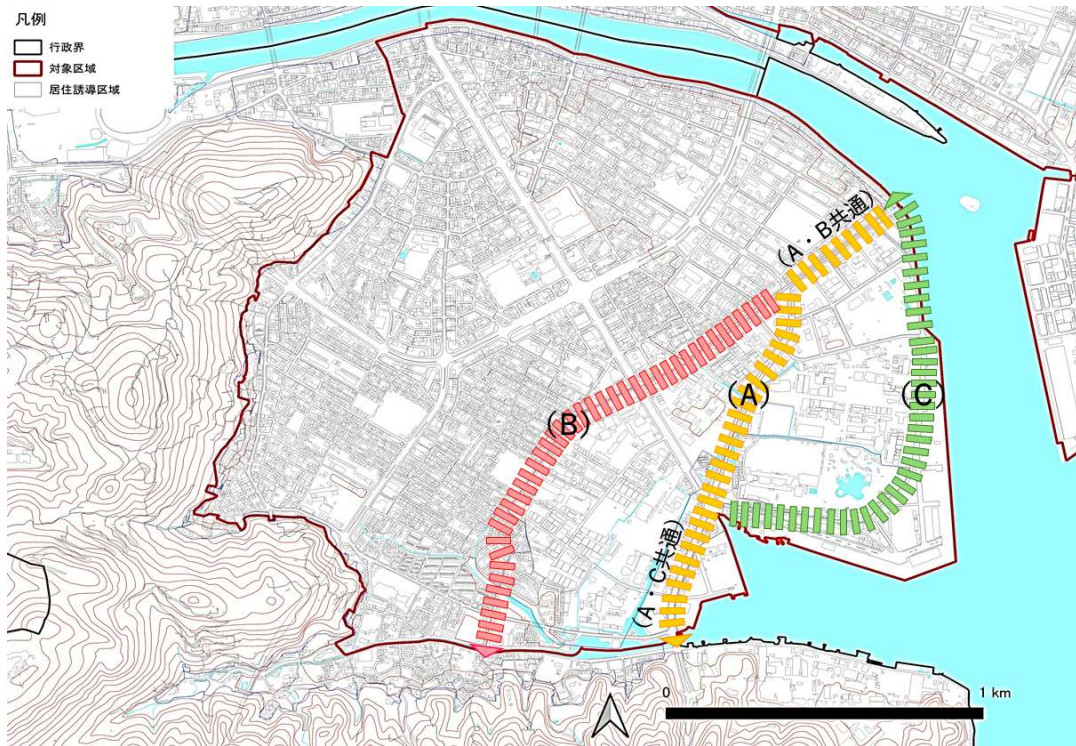
『絆を深め助け合い 暮らしやすさと安心を未来へ』

ワークショップでは、「いざという時に助け合える**人のつながり（絆）**こそが、復興には欠かせない」という熱い思いが多く寄せられました。また、身近な山々が「憩いの場」であると同時に、「命を守る避難所」でもあるという潮江ならではの強みも再確認できました。

ビジョンには、今の便利で豊かな暮らし（自然と利便性）を守りながら、住民同士が手を取り合う（**共助**）ことで、次の世代へ「**安心な潮江**」をしっかりと引き継いでいくという強い決意を込めました。

第2回ワークショップの振り返り（意見交換2）

意見交換2 復興パターン案について意見を共有しましょう



(原案)
 (A) 新田町萩町一丁目線～
 潮新町線ルート

(内陸配置案)
 (B) 新田町萩町一丁目線～
 旧中堤～市道潮江6号
 線ルート

(沿岸部配置案)
 (C) 市道潮江355号線～県
 道～高知駅高知港線
 ルート

A案（原案）

- ・ A案は、B案よりも広範囲にまちを守れる。
- ・ C案よりも事業費が安く、期間も短いため生活の再建が早そう
- ・ 二線堤を境にコミュニティの分断が起こりそう
- ・ 既存の広い道路を活用するので、整備がしやすいのではないかな

B案（内陸配置案）

- ・ B案は費用や近くに住んでいる方への影響が大きくなりそう
- ・ 二線堤を境にコミュニティの分断が起こりそう
- ・ B案を行うなら、まちの機能を内陸部に集約したら住みやすくなりそう

C案（沿岸部配置案）

- ・ C案は潮江全体が守られて、みんなが安全に住み続けられる
- ・ C案は日当たりや景観が悪くなる心配がない

その他

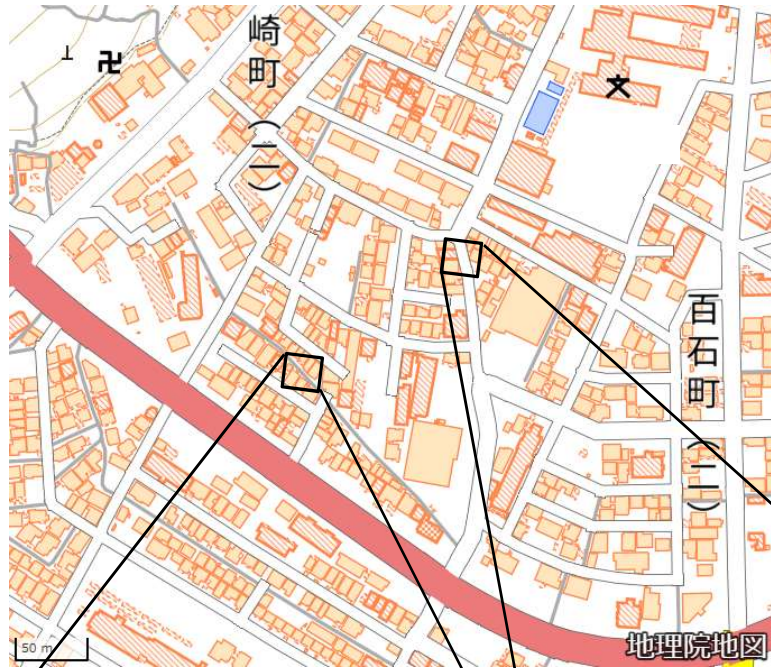
- ・ 地盤沈降によっても、二線堤のルートが変わってくるのではないかな
- ・ 土地区画整理事業の際には、歩道も併せて整備してほしい
- ・ 国の補助金が入れば、事業費が安い案になるのではないかな

その他意見回答について

意見交換2 復興パターン2案について意見を共有しましょう

	意見まとめ	回答
にぎわい	にぎわい形成エリアはわんぱーく高知だけでいいのではないか	復興の際には、「わんぱーく高知」がにぎわい創出の拠点となると考えています。わんぱーく高知周辺だけでなく、高知新港の活用も踏まえたエリアでの一体的な空間づくりを検討し、地域の価値をより高められることを想定しています。
土地・道路	百石町周辺の生活道路を広げると生活がしやすくなる	現地調査を行い、原案に新たに土地区画整理事業の範囲を追加しました。 次頁参照
津波対策	孕東町から仁井田の浦戸湾に津波の遡上を防止する対策をしてほしい。	津波防護対策については、高知港から浦戸湾にかけて湾口・外縁・内陸部の「三重防護」により浸入防止と被害軽減を図っています。国・県による検討会議では孕地区等への固定・可動式防波堤も検討しましたが、河川への影響（洪水リスク）や船舶航行、湾内環境への負荷等を総合的に考慮し、現在の計画となりました。今後も、堤防の耐震化や粘り強い構造への改良が着実に進むよう、県や国と緊密に連携を図り、市が担うソフト対策とあわせ、地域の安全・安心なまちづくりに取り組みます。
	C案の二線堤を孕東町まで伸ばしたらどうか	
自然	筆山に遊歩道を整備してほしい	筆山は一部民有地であり、その活用については復興時の状況に応じて判断いたします。活用方法に関するご意見として承ります。
事業手法	国の補助金を活用する場合は、事業費が安い案が選択されるのではないか	補助金を活用する場合であっても、単に事業費が安価な案が優先的に選択されるわけではありません。復興まちづくりは、被災された方々の「生活の再建」と「地域の安全性確保」が最も重要であり、復興の手法は、その土地の被害状況や地理的条件に加え、住民の皆様の意向を丁寧に聞き取った上で検討されるものとなります。それぞれの地区に最適な手法を選択することが、結果として将来にわたる持続可能なまちづくりにつながると考えております。
浸水被害	豪雨の際にポンプ等が機能しない場合、二線堤によって水が溜まるのではないか	災害時への対応としては、ハード及びソフト面による対策を進めており、ハード対策としては、施設の耐震・耐津波化対策として、建物破壊や津波の浸水を防ぐための改修工事等を進めています。ソフト対策としては、万が一機能が停止した場合に備え、緊急時における職員配備体制の構築、また、長期浸水の早期解消を目指し、堤防の止水対策を行う県との連絡対策の構築の取組等を進めています。 二線堤形成案では、津波に対する減衰効果を活かしつつ、内水氾濫のリスクも最小限に抑えられるよう、対応することになります。

百石町周辺の土地区画整理事業の追加



- 道幅の狭い生活道路で隣には水路も存在する。



- 道幅は4.0mは確保されているが、車同士のすれ違いは困難で、見通しが悪い。

復興パターンに関する意見

- 百石町周辺（塩屋崎町）の道路も広げてほしい

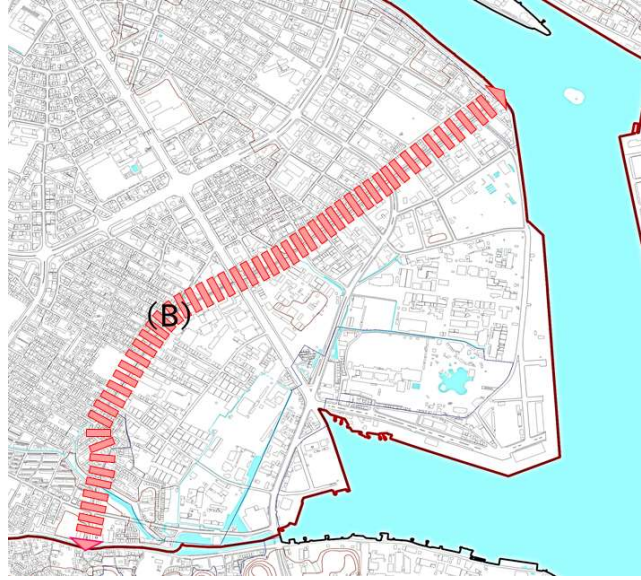
検討結果

概ね4m以上の道路幅があるものの、地区内には私道や道路幅2m程度の市道などが存在し、土地区画整理事業も未実施であり、道路の見通しも悪いなど交通や防災の面で課題がある状況です。
復興パターンとして新たに3.5haの範囲で土地区画整理事業の範囲を追加する。

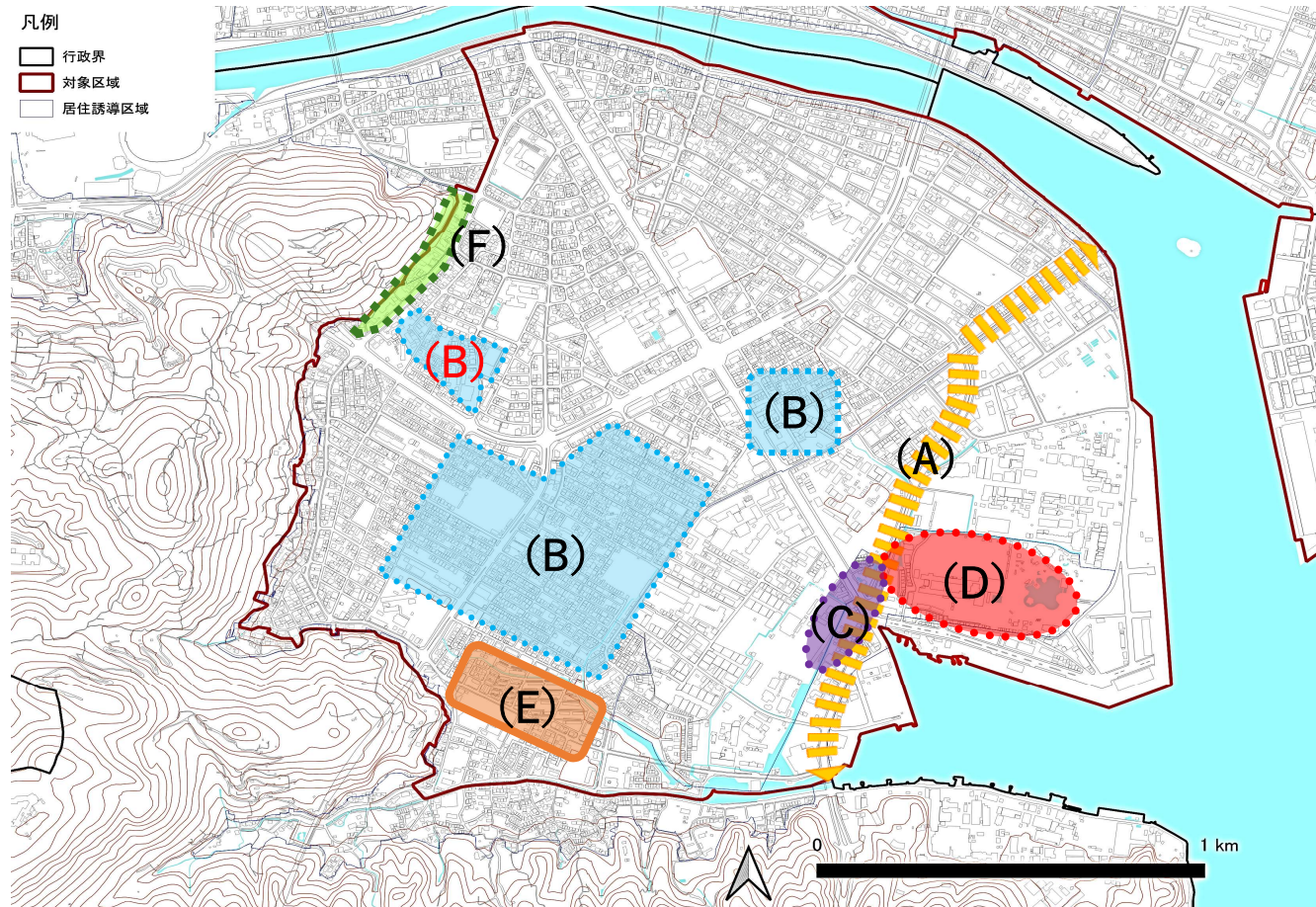


第2回ワークショップの振り返り（意見交換2）

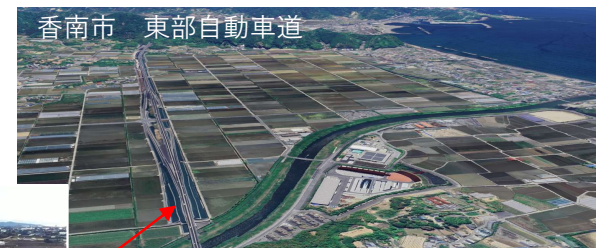
意見交換2 復興パターンについて意見を共有しましょう

パターン	A案(原案)	B案(内陸部配置案)	C案(沿岸部配置案)
	新田町萩町一丁目線～潮新町線ルート	新田町萩町一丁目線～旧中堤～市道潮江6号線ルート	市道潮江355号線鏡～県道～高知駅高知港線ルート
ポイント	・幹線道路中心に二線堤となる空間整備	・甚大な津波被害が想定される等復興事業が必要となる地区・区間を中心に整備	・臨海部に二線堤となる空間整備
			
評価	(○)	(△)	(▲)
	幹線道路を中心に整備を行い、多くの住居が存在する区域の津波に対する安全性も向上し、費用も3案で最も安価	被害が想定される地区と併せた整備を行い、効果的な復興に期待できるが、土地地区画整理事業を伴うため、合意形成等に課題もあり費用も高い	地区全体の津波安全性を高める効果は期待できるが、事業範囲の権利者等、関係者が多岐にわたり、合意形成や事業実施までの調整に時間を要する事が想定され、費用も最大。

(最終案)二線堤形成案

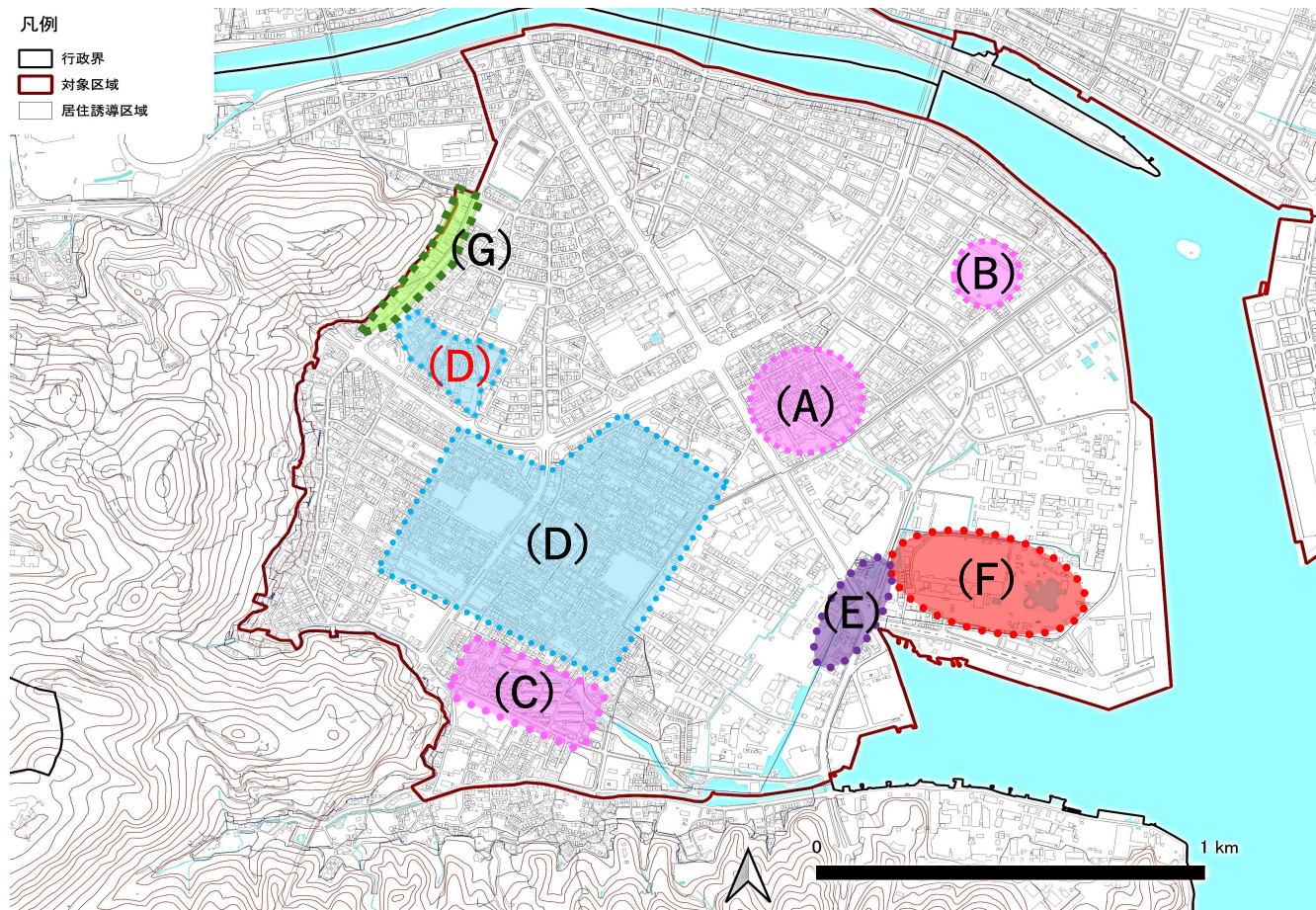


- (A) 二線堤 (原案ルート)
- (B) 土地区画整理事業
道路基盤整備検討
- (B) 土地区画整理事業
道路基盤整備検討
- (C) 建築制限による誘導
1階部分の非居住化
- (D) にぎわい形成
にぎわい施設の立地誘導
- (E) 市営住宅有効利用
空き室の利用を検討する
- (F) 土砂災害対策



(二線堤イメージ)

(最終案)防災拠点形成案



第2回ワークショップの振り返り（意見まとめ）

ワーク4 速やかに復興するために必要なことについて意見を共有しましょう。 —— プラットフォーム意見

災害への備え

住民ができること

（自助）

- ・相続登記の手続き
- ・自分の命を守る
- ・建物の耐震化を行う
- ・避難所、避難場所の位置を把握する
- ・日頃からごみを減らす
- ・備蓄品の定期確認、食料の確保
- ・家具転倒を防止する
- ・車中泊を経験しておく

（共助）

- ・共助力を高めておく・地域の繋がりを強めておく
- ・地域で顔が見える関係を作っておく
- ・地域で避難訓練を行う

行政にしてほしいこと

- ・避難所の備蓄品の整備
- ・避難所環境の整備
- ・避難場所の増加
- ・避難路の整備
- ・古い建物の耐震化
- ・防災教育の強化
- ・医療機関の充実
- ・自助と共助の選別
- ・耐震化の補助の拡充
- ・事前復興の周知



被災時の助け合い

- ・みんなで炊き出しを行う
- ・ボランティアを行う
- ・組織力、町内会のつながり
- ・近所へ声掛けをする
- ・地域で避難所運営を行う
- ・全員で役割分担をする
- ・共に助け合う意識の強化（他人への思いやり）
- ・人との繋がりを作るため、地元のイベント等に積極的に参加する



- ・災害ボランティアの受け入れ体制を整備
- ・津波等で車が使えなくなることも想定される、借りられる車の手配を考えてほしい



復興まちづくり

- ・行政へ土地を提供する
- ・復興に関する知識を深める



- ・長期浸水の早期解決
- ・復興体制の整備
- ・教育・保育施設の早期復旧
- ・仮設住宅・災害公営住宅の早期確保
- ・復興事業費を速やかに確保してほしい
- ・個人、事業者への補助金の拡充
- ・災害ごみの処理
- ・働ける場所の確保・支援
- ・道路啓開を速やかに行ってほしい
- ・インフラの早期復旧
- ・受援体制の整備

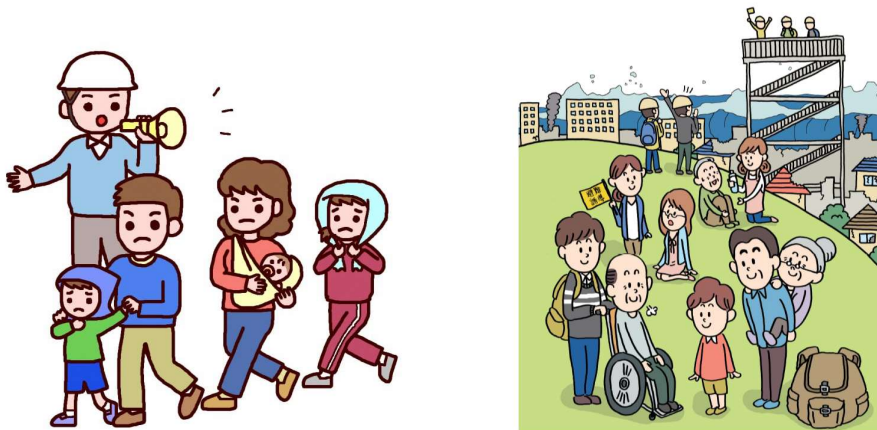


ワーク5

災害が起こる前からできることを考えてみよう！

例)

- ・ 事前復興まちづくり計画の作成
- ・ 防災知識の習得
- ・ 防災訓練への参加
- ・ 住宅の耐震化
- ・ 家具転倒防止対策
- ・ 家庭内防災対策 など



潮江南地域連合会（R6～R7）

- 1月
 - ・ 餅つき・中国式獅子舞
- 2月
 - ・ PTAバザー
- 3月
 - ・ 浦戸湾・七河川一斉清掃
- 5月
 - ・ 潮江中学校見回り活動
- 6月
 - ・ 潮江南夏まつり
- 11月
 - ・ 草刈り、竹伐採作業、筆山ハイキング
- 12月
 - ・ 潮江南体育会チャリティソフトボール大会 等

事前復興まちづくり計画ワークショップを終えて



皆さんに覚えておいてほしいこと

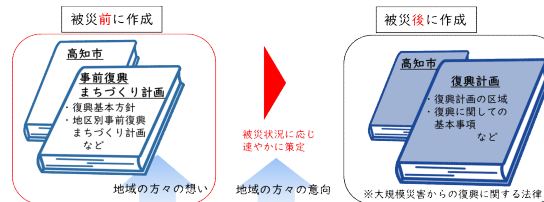
①「こんな潮江にしたい！」という未来像の共有



災害後は「早く元に戻したい」と焦るあまり、災害前の地域課題までそのまま引き継いでしまいがちです。だからこそ、平時から「将来の潮江をどうしたいか」を共有しておくことが大切です。

今回話し合った「潮江の魅力」や「楽しくなる未来の姿」を取り戻したいという思いは、いざという時に皆さんの心を支え、より良いまちへ復興するための「**最大のエネルギー**」になります。

②復興の道しるべ



今回のワークショップでは、被災後のまちの姿を疑似体験し、皆さんで意見を交わしました。この「事前に話し合った経験」こそが、いざという時の迷いを減らし、速やかな復興へ向かうための強力な「**道しるべ**」になります。将来いつ来るかわからない地震に備え、今回皆さんと話し合った大切なご意見は、実際の「**潮江地区の復興計画**」へとしっかりと繋げていきます。

③未来の潮江を救う「地域でのつながり」

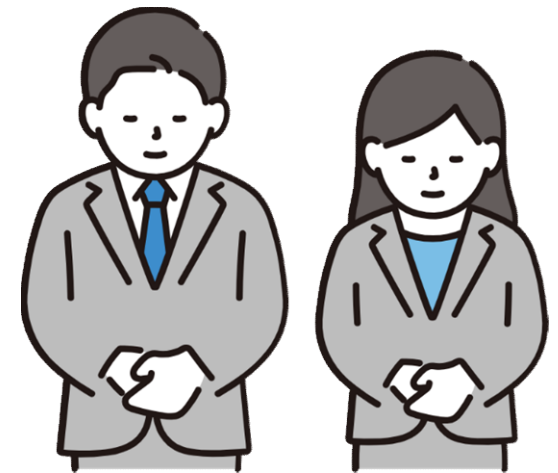


ハード面（建物や道路）の復旧も大事ですが、被災後、そして復興において最も大切なのは「**人とのつながり**」です。「事前復興」と聞くと難しい計画書を作るように思われがちですが、地域の孤立を防ぎ、住民主体で復興を進めるための究極の備えは、日々の挨拶やご近所づきあいにあります。

ワークショップが終わっても、今日ここで話し合ったことを大切に、地域の行事や防災訓練に顔を出すなど、「今日からできる小さな行動」が、未来の潮江を救う大きな力になります。

事前復興まちづくり計画ワークショップを終えて

お忙しいところ事前復興まちづくり計画ワークショップにご参加いただきありがとうございました。



皆様からいただいた意見をもとに作成した「地区別事前復興まちづくり計画」は防災政策課ホームページに掲載されますのでよろしくお願いいたします。